

神社の杜(二十二)

御岳ビジターセンター

片柳 茂生

# もうひとつの節分祭

節分の日にはどの神社でも、力士や有名人を招いて盛大に行われる豆まきが普通になってきました。当神社でも地元の名士をお招きして行っています。でも武蔵御嶽神社にはもう一つの隠れた節分祭があるのです。それがいつ頃から今のような状態で行われるようになったのかは定かではありません。しかし八十歳くらいの老人に聞いてみると内容はともかくとしてそれはあったようです。

日も暮れかかる頃、神社の階段を子供達が手に大きな笹ささや箱を持って登っていきます。神社に着くと、神様への挨拶もそこに拝殿に上がり、みんな遊んだりしてその時を待っています。



イラスト 井口三月

ます。時間が経つにつれ拝殿の中は小さい子供とそのお母さんやおばあちゃん達、それに小学生などでいっぱいになります。ここからが御岳山で昔から行われている、「豆まきの始まりです。御岳山では、家で豆まきをする前に、先ず神社に行つて豆まきを行うのです。神社にやってきました人は、幣殿に上がり、太鼓をたたき、神前のご挨拶をします。そしていよいよ、「福は内福は内、鬼は外鬼は外」というかけ声がかかり、豆まきが始まります。

おや? 撒いているのは豆だけではありません。豆と一緒におせんべい、飴、チョコレート、

# 古代米

健康食ブームの中、古代米が注目されている。お米の原種である野生の稲で、赤や黒など玄米に色があるものが多い。

豊葦原トヨアシハラの瑞穂の国といわれ、稲作に適した我が国で主食である米は、昔より文化発展の基礎であり要であった。また、神に供える神饌の第一はミケ(白米)である。古代米といわれる代表が赤米であり、昔の神饌にはこれが多く使われていた。おめでたい時炊かれる赤飯も、その名残りとされている。また、今の稲に比

なにはインスタントラーメンまで撒く家もあります。そう、子供達の目的は、このお菓子を拾うことだったのです。何しろ三十数軒の家で撒くのですから、拾うお菓子の数も半端ではありません。それで子供達は大きな笹や箱を用意していたのです。神社の豆まきが終わり、子供達も家路につくころ、集落のあちこちから「福は内福は内、鬼は外鬼は外」の声が響いています。

べ丈が高く、しめ縄に適しており、神社との関係は深い。

赤米の多くが「うるち米」であるのに対し、黒米は「もち米」の種類が多い。赤米だけでは、あまり美味しくない古代米も、ブレンドし、白米に少し混ぜて炊くと、食感もよく美味しういただける。

今日の稲に比べ、荒れ地で肥料が少なくても丈夫に育つが、収穫量は少ない。そのため値段は割高だが、タンパク質・ビタミン・ミネラルなどが豊富で栄養価も高く、ますます需要が高まりそうだ。 片柳 至弘

## あとがき

今年には四年に一度のオリンピックが開催され、又アメリカ大統領選挙の年でもある。当社では十二年に一度の式年大祭を来年に控え、その準備や記念事業の完成にと忙しい毎日を送っています。 小高登様、齋藤先生には玉稿を、金子千侍先生には選句、選評を賜り、ありがとうございます。

平成十六年三月八日発行

編集 武蔵御嶽神社  
(年一回発行・非売品)

印刷 ㈱成和印刷  
Ⅷ(〇四六)(七)八五〇  
Ⅷ(〇四六)(七)九四二